

[今月の詩編]

第73篇

神はイスラエルに対して

心の清い人に対して、恵み深い。

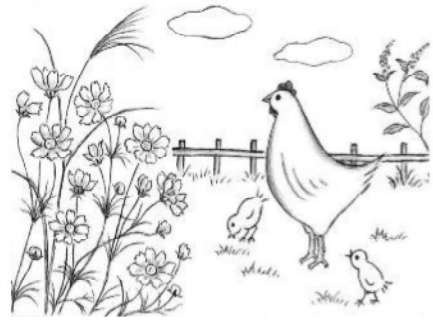
手を伸ばしなさい

片手の萎えた人に奇跡が起こりました。すると、ファリサイ派はいよいよイエスを殺す相談を始めます。そのきっかけになったのは、主の次のような問いでした。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか」。どちらが大事なのか、誰にでもすぐわかるような問いです。

でも、人々は黙ってしまい、答えることができません。安息日を大切にしていた人たちも、その人が生きるか死ぬか、命に関わることであれば、安息日であっても当然救うべきだと思っていました。でも今問題になっているのは、片手が萎えていること。しかも今は安息日です。大変だろうけれども、生きるか死ぬか、今すぐ命に関わることではない、そう思ったのです。

教会には多くの方が来られます。やっとの思いで初めて教会に足を踏み入れた人、もう既に教会員だけれども、心に悩みや問題を抱えている人。わたしたちはその人に救われてほしいと思います。誰も悪いことをしよう、まして殺そうなんて思いません。でも、その人たちをどう見ていたか。その人が生きるか死ぬか、今すぐ命に関わることではない。そういう思いで、この人を見ているようで見ていなかったのではないかと思うのです。良いことをしているとは言えないけれど、命を殺すことはしていない。主イエスに問われて黙ってしまった人たちの思いが、自分の中にあつたことを認めざるを得ません。そして、そういう思いを持っていたすべての人が、やがて本当に主を十字架につけて殺してしまうのです。

片手の萎えた人というのは、自分の正しさのため、人の痛みと一緒に痛むことができなくなり、心が石のようになり黙ってしまった人たちのこと、わたし



たちのことです。主はそういうわたしたちを怒って見回されます。そして、かたくなな心を悲しまれながら、その人に、手を伸ばしなさいと言って、癒やされるのです。

主は言われます。「真ん中に立ちなさい」。真ん中に立つと、皆から見られます。自分でも改めて自分の姿を見ることとなります。でも何より真ん中に出ると、主に見ていただくのです。そうやって自分の本当の姿を見て、罪を告白し悔い改めると、次にすべきことは主が示してくださいます。「手を伸ばしなさい」。そう言われても、簡単なことではありません。この人は長い間、あるいは一度も手を伸ばすことはできなかったのです。不可能です。

手を伸ばしなさいというのは、信じなさいということです。今までの状況、自分が当たり前、これこそ確かで正しいと思うことに縛られ、自分の今の状況が絶対と思うのではなく、わたしを信じてごらん。この人は、その主の言葉を信じました。だから手を伸ばしました。わたしたちのかたくなな心が癒やされる方法も、信じて従うこと、これだけです。片手が癒やされるだけでなく、わたしたちが本当に人間らしく生きられるようになるために、主は十字架でわたしたちを救ってくださったのです。

(マルコ三・一～六)

《 今日の礼拝 》

2021年9月26日(日)

一回礼拝(9:30より)

司 式 山下 純一 兄

聖餐司式 黄 允湜 牧師 ・ 菊池 美穂子 副牧師

- 前 奏 「いと高きにある神にのみ栄光あれ」
J.S.バハ
- 讃 美 60番(1、4節)
- 十 戒
- 告白の祈り
- 奉 献 頌
- 使徒信条
- 牧会の祈り
- 主の祈り
- 聖書朗読 マタイ15章21～28節(新約P.30)

- 説 教 「食卓から落ちるパン屑でも」
黄 允湜 牧師

- 讃美歌 280番(1、4節)
- 聖 餐 「(システーナ礼拝堂への祈り)より」
F.リスト
- 報 告
- 頌 栄
- 派遣の言葉
- 祝 福
- 後 奏 「フーガニ長調」 L.V.ベートーヴェン

《 今日のお知らせ 》

- 今日の礼拝後、正午より樋口芳子さんのお葬式を執り行います。礼拝同様、インターネット配信いたしますのでご利用ください。

- 今年のクリスマス礼拝で受洗、転入会をご希望される方は、10月10日(日)までに入信記を牧師宛にご提出ください。

《 教会学校礼拝 》

- 9月26日(日) 朝9時～HPにて配信
タイトル 「素直なナアマン」
聖 書 列王記下5章1節、9～14節
メッセージ 宮間 彰広 兄



《 次週の礼拝 》

一回礼拝(午前9時30分)

- 讃美歌 74番 341番
- 説 教 「癒され、満たされるべきもの」
- 聖 書 マタイ15章29～39節
- 説教者 黄 允湜 牧師

